

代表質問

鳥取県議会自由民主党



福田 俊史 議員
選挙区 八頭郡

鳥取からの日本創生

問 石破政権は「地方創生2.0」を「令和の日本列島改造」として実行する決意を示した。新たな地方創生に対し、どう期待しているか。

答 家族や地域の人々と絆を結ぶ「鳥取型の幸せ」を目指すことが、石破総理が言う楽しい日本だと思ふ。また、地方創生2.0には「広域リージョン」という新しい言葉もあるが、既に関西広域連合などで府県同士が協力し、活力の創出に取り組んでいる。さらに、若者や女性が強調されていることから、各世代が楽しんで暮らせるふるさどづくりを考えていく。

問 今任期中に、将来を見据えてどのような点に注力されるか。

答 若者の意見を県政に反映させ

るようタスクフォースを立ち上げたほか、選挙でのいわゆる「2馬力選挙」という問題も他の知事と協力してアピールしてきた。地方自治や民主主義を守り、また、若者や女性が暮らしやすい社会の実現に向け、ベクトルを大きく変える。ほかに、移住定住を増やす対策も大きな課題だ。

地方を守る

問 台湾への直行便が5月に就航する。これを契機として台湾との交流をどう進めていくのか。

答 地方レベルの地域間交流は活発であり、学校同士の交流も生まれている。初便では台湾の観光関係者が多く来県されるため、ビジネスも含めた交流を進め台湾直行便を育てていきたい。

問 人口減により買物環境の確保や地域公共交通の維持が困難になると予想される。対症療法でなく、より一歩踏み込んだ対策が必要と考えるがどうか。

答 人口減少下で買い物環境などは維持しづらく、抜本的な解決も

非常に困難。様々な主体が協力し合い、持続可能な場を作っていくことがこれからの主眼と考える。過疎先進県でもあるため、課題解決の先進県として今後を展望したい。

問 農業生産1千億円達成プランなどをどう展開していくのか。

答 技術や経験に頼らず農業に新規参入できるよう、スマート農業を推進するモデル事業に着手するほか、新たな種雄牛の造成を目指すなど、いろいろな取組に挑戦していく。

未来を守る

問 県民参画型の県民立美術館の開館を目前に控え、年間来館者10万人の目標の実現に向けた知事の意気込みを伺う。

答 3分の2を無料ゾーンとして、本当の公共施設の美術館というコンセプトで運営していく。障がい者や高齢者向けの鑑賞時間も設け、色々な方が鑑賞しやすくなる取組も検討している。

問 高校の魅力化の取組をどう評価しているか。また、今後の議論をどう進めていくのか。

答 (教育長) 低学年にも体験入学を広げるなど、高校の魅力化をPRしてきており、企業と協力してスーパードキュメントなどの育成に取り

組めているのも取組の大きな成果と考える。今後、特に中山間地域の学校については、その地域にとってなくてはならない高校のあり方を議論し、ふるさとキャリア教育の成果にもつなげていきたい。

暮らしを守る

問 本県で開催された「ねんりんピック」の大会レガシーを生かした地域づくりを進め、健康寿命を延ばし、あらゆる世代が希望を持てる鳥取県の実現に必要なと考えるが、どう取り組むか。

答 大切なのは健康づくり。フレイル対策事業も強化し、高齢者が健やかに年を重ねられるよう、地域の環境を整えていきたい。

県民を守る

問 山陰道と山陰近畿道をつなぐ通称「南北線」は、災害発生時には現実性の高い緊急輸送路となり、県土の強靱化にも寄与する。整備に向けた現状はどうか。

答 令和2年に国から素案が示されて以降、停滞していた。関係者と様々な交渉を重ね、都市計画手続を前進させられるめどが立った。できる限り円滑に都市計画決定に向けた手続きを進めていきたい。早ければ年内にも出口にたどり着けると思ふ。

代表質問

鳥取県議会民主とっとり



村上泰二朗 議員
選挙区
西伯郡



これからの高速道路整備

問 米子―境港間の高規格道路は今が正念場。計画段階評価に向けた手応えは。

答 一定の手応えがある。必要性については以前と変わってきた国の答えになっている。令和6年度内にもう1回国に対して要請活動をして、何とか令和7年度の箇所づけ獲得につなげていきたい。

問 江府三次道路はどんな形でも全線開通を目指していくべきと思うが、未事業化区間への思いは。

答 5期目の公約に地元意見に基づいて江府三次道路の進捗を図ると書いた。独立した自動車専用道を地元が切望している状況でもないので、現道改良等により江府三次道路の進捗を図っている。

子育て王国と通りの進展

問 給食費の無償化に向けて市町村との交渉状況は。

答 市町村とかんかんがくがく議論したが、あつたほうがいいというものの、本当は国全体でやるべきというのがそろっている。令和8年度から小学校から無償化するという国会の取りまとめを見てフォローしていく。

問 全国で急速に子育て政策の大切さが認識されて進む中で、鳥取県が埋もれてしまっているのではないかと危惧している。

答 国の子育ての政策がどんどん進んでくるときに、では我々は次の一手をどうするかというのをシン・子育て王国として今後また丁寧に市町村と協議を進めていきたい。他の地域を一步、二歩リードしながらぜひ鳥取は住みやすい、育てやすいとアピールできるようにしていければと思う。

鳥取県の基幹産業

問 県民所得を向上させていくために、基幹産業をいま一度再考し

ていくことが極めて大切だと思う。観光や宇宙産業、医工連携やITなど、鳥取県はこれでやっていくということを示していくのも知事のリーダーとしての役割であり、方向を示していただければ。

答 以前の液晶産業を中心とした方針を、それぞれの産業を応援する形に切り替えた。ニッチな産業でも大切に将来伸び行くものを育てていく。航空系産業や食品系、部品産業や半導体など、産業や経済の動きに併せて産業誘導する。

分散型県庁の実現

問 国の動きから先行して鳥取県庁も分散をして、中山間地域を含む県全体へと広げ、八頭に生活環境部、日野郡に福祉保健部や教育委員会、米子市に商工労働部、境港市に危機管理部を置く、こんなことを考えてはいかがか。

答 この時代だから、場所ですべて縛られるものではなく、円滑に機能する県庁にする様々な工夫を今後展開していきたい。

日野高校の学級減

問 日野高校の学級減の案が示された。日野高校は2学級、結果的に少人数学級で、課題解決できる生徒を育てる教育方針、地元の熱意ある支援により、魅力ある高校

として学校の存続へ向けて努力している。この学級減は学校の魅力の減退につながり強く反対する。教育機関が中山間地域にある意味を考えて知事の所見は。

答 地方行政委員会としての教育委員会の独立性を尊重する。

教育の諸課題への対応

問 昨年教員採用数が予定数から大きく不足した。今年の辞退数などの程度採用できる見込みなのか。

答 (教育長) 現時点では不明。

問 不登校も増えており、フリースクールに第2の教育機関の役割が大きくなっている。支援体制のこれからの取組は。また、いじめ被害者は全額無料化すべき。

答 授業料助成、通学費助成などフルセットでやっているのは、全国でも鳥取県ぐらい。急速にフリースクールが増えて新年度、16、17校になる。連携して子どもたちの育ちを支えたい。いじめ被害者だけを特別に支援するのではなく、平等に支援すべき。

問 学校現場に山積する課題に対して校長と教頭の学校経営力が大切であり、学校経営力を高めるべく専門職として教育行政職を導入するべきでは。

答 (教育長) 子どもたちの教育が充実するよう努めてまいりたい。